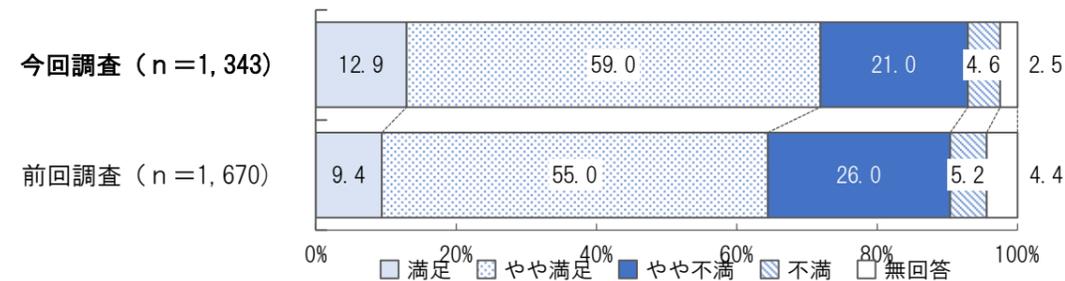


令和 2 年度市民意識調査 結果概要

I 市の取組みについて

市政全般の満足度 市政全般について『満足』（「満足」＋「やや満足」）が7割以上 (P.10 問1)

前回調査に比べ『満足』（「満足」＋「やや満足」）が7.5ポイント増加し、『不満』（「やや不満」＋「不満」）が5.6ポイント減少している。



基本施策に対する満足度 満足度指数※が高い基本施策は、
・「水道水の安定供給と下水道の整備」 ・「消防・救急体制の充実」
・「スポーツの振興」 (P.14 問4)

※「4」に近いほど満足度が高く、「1」に近いほど満足度が低いことを示している。

■ 満足度指数順位表（抜粋）

順位	基本施策	満足度指数	順位	基本施策	満足度指数
1	水道水の安定供給と下水道の整備	2.97	27	機動的な組織体制の構築と人材の育成	2.60
2	消防・救急体制の充実	2.91	28	移住・定住の推進	2.59
3	スポーツの振興	2.90	29	産業を担う人材の育成・就労の支援	2.58
4	健康づくりの推進	2.88	30	計画的な土地利用の推進	2.55
5	環境にやさしい社会の確立	2.79	31	公共交通体系と道路網の整備	2.47

基本施策に対する重要度 重要度指数※が高い基本施策は、
・「危機管理・防災対策の推進」 ・「地域医療体制の充実」
・「消防・救急体制の充実」 (P.16 問4)

※「4」に近いほど重要度が高く、「1」に近いほど重要度が低いことを示している。

■ 重要度指数順位表（抜粋）

順位	基本施策	重要度指数	順位	基本施策	重要度指数
1	危機管理・防災対策の推進	3.73	27	共生社会の確立	3.19
2	地域医療体制の充実	3.72	28	コミュニティと市民活動の活性化	3.17
3	消防・救急体制の充実	3.67	29	文化の振興と歴史遺産の整備、活用	3.12
4	市民生活の安全・安心の確保	3.66	30	スポーツの振興	3.11
5	子ども・子育て支援の充実	3.61	31	ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	3.06

II まちへの想いについて

愛着や親しみ 磐田市に愛着や親しみを『感じている』人は8割以上 (P.26 問7)

前回調査に比べ『感じている』が1.0ポイント増加し、『感じていない』が0.4ポイント増加している。

居住継続意向 磐田市に『住み続けたい』人は9割以上 (P.29 問29)

前回調査に比べ『住み続けたい』が4.5ポイント増加し、『転出したい』が1.8ポイント減少している。

暮らしやすさ 磐田市は『暮らしやすい』と思う人は約9割 (P.30 問10)

III 産業について

活性化するために優先すべきもの 市内の産業をさらに活性化するために優先すべきものは、
・「成長が期待できる産業（企業）の誘致」
・「地域の商店街や磐田市の顔となる磐田駅前周辺の商店街の活性化」 (P.36 問12)

前回調査に比べ「新規創業を目指す意欲ある人への支援」が5.4ポイント増加し、「成長が期待できる産業（企業）の誘致」が3.7ポイント減少している。

IV コミュニティについて

地域活動に参加している人 何らかの地域活動に参加している人は約6割 (P.38 問13)

前回調査に比べ「参加していない」人が8.2ポイント増加している。

地域活動に参加する理由 地域活動に参加する理由は、
・「参加者同士の交流ができるから」
・「地域の様子を知ることができるから」
・「順番がまわってきたから」 (P.40 問14)

地域活動に参加していない理由 地域活動に参加していない理由は、
・「仕事をしているため参加する時間がないから」
・「人間関係が面倒だから」
・「一人では参加しづらいから」 (P.42 問15)

地域活動を活発にするための支援策 地域活動をより活発にするための支援策は、
・「活動機会の情報提供」 ・「活動に対する補助金・助成金」 (P.44 問16)

前回調査に比べ「相談窓口の充実」が16.5ポイント増加し、「活動機会の情報提供」が14.4ポイント、「小・中学校と地域との連携」が7.9ポイント減少している。

V 福祉について

住み慣れた地域で安心して暮らすために 住み慣れた地域で安心して暮らしていくために優先すべきものは、
 ・「公共交通など移動手段の確保」
 ・「在宅医療・在宅福祉を支えるサービスの充実」 (P. 46 問 17)

前回調査に比べ「公共交通など移動手段の確保」が7.6ポイント増加し、「保育サービスなどの子育て支援の充実」が6.4ポイント、「高齢者の生きがいづくり」が6.3ポイント減少している。

VI 子育て・教育について

安心して子どもを産み育てるために 安心して子どもを産み育てるために優先すべきものは、
 ・「幼稚園や保育園、こども園などの施設整備」
 ・「延長保育、一時保育などの保育サービスの充実」 (P. 48 問 18)

前回調査に比べ「子育てに関する情報提供や相談体制の充実」が1.7ポイント増加し、「延長保育、一時保育などの保育サービスの充実」が3.4ポイント、「公園など子どもが安全に安心して遊べる場の整備」「産科・小児科医療の充実」がそれぞれ2.5ポイント減少している。

子どもたちに対する教育を充実させるために 子どもたちに対する教育を充実させるために優先すべきものは、
 ・「いじめを未然防止する『心の教育』の充実」
 ・「健やかでたくましい心身の育成」 (P. 50 問 19)

前回調査に比べ「学校施設や設備の改善・教材や備品等の充実」が6.0ポイント増加し、「いじめを未然防止する『心の教育』の充実」が8.6ポイント、「教師の指導力の向上」が7.5ポイント減少している。

VII 広報・広聴について

市からの情報の入手方法 市からの情報を得る手段は、「広報いわた」が8割以上 (P. 52 問 20)

前回調査に比べ「議会だより『いわた羅針盤』」が10.8ポイント、「磐田市ホームページ」が5.7ポイント、「磐田市公式SNSなど」が4.9ポイント増加している。

磐田市の魅力を全国に発信していくために 磐田市の魅力を全国に発信していくために有効なことは、 (P. 54 問 21)
 ・「インターネット(ホームページやSNSなど)を活用した情報発信力の強化」
 ・「様々なマスメディア(新聞・雑誌・テレビ等)を活用した情報の発信」

前回調査に比べ「インターネット(ホームページやSNSなど)を活用した情報発信力の強化」が3.7ポイント増加し、「イメージキャラクター『しっぺい』を活用したPR活動の展開」が12.1ポイント減少している。

VIII 行政運営について

行政サービスの水準と市民の負担のあり方 行政サービスの水準と市民の負担のあり方で最も多い回答は、「財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい(これ以上市民の負担は増やすべきではない)」 (P. 56 問 22)

効率的な行政運営のために 効率的な行政運営のために進めなければならないことは、
 ・「行政組織を簡素・合理化(職員の適正配置等)する」
 ・「行政と民間の役割を見直し、民間にできることは積極的に民間に任せろ」 (P. 58 問 23)

IX SDGsについて

認知度 SDGsの『名称を知っていた』人は約3割 (P. 60 問 24)

関心度 SDGsに『関心がある』人は約7割 (P. 61 問 25)

今後の市政において特に優先すべきもの SDGsの17の目標のうち、今後の市政において優先すべきものは、
 ・「3 すべての人に健康と福祉を」
 ・「11 住み続けられるまちづくりを」
 ・「13 気候変動に具体的な対策を」 (P. 62 問 26)

X 市民参画について

市政参画の関心度 市政への参画に『関心がある』人は約4割 (P. 64 問 27)

方法別の関心度 最も『関心がある』市政への参画方法は、
 ・「磐田市の計画策定などの説明会やワークショップ(意見交換)、まちづくり懇話会に参加すること」 (P. 66 問 28)

市政参画を促すために 市民の市政参画を促すために必要なことは、
 ・「わかりやすい広報活動」
 ・「楽しく参加できる工夫」 (P. 70 問 29)

XI 新型コロナウイルス感染症について

家庭の収入の変化状況 家庭の収入が『減少した』は約4割 (P. 72 問 30)

感染拡大の防止と社会経済活動の維持のために 感染拡大の防止と社会経済活動の維持のために重要なことは
 ・「治療や療養のための医療体制の確保」
 ・「感染防止のための基本的な対策(密集・密接・密閉の回避やマスクの着用など)の推進」 (P. 74 問 31)

調査の概要

1. 調査の内容 回答者の基本属性、磐田市のまちづくりについて、共生社会について
2. 調査方法 対象者：市内に在住の18歳以上の市民
 標本数：3,000人(無作為抽出)
 調査方法：郵送配布-郵送回収
 調査期間：令和2年7月22日～8月11日

3. 回収結果

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
3,000人	1,346人	1,343人	44.8%